

## ①編修趣意書（教育基本法との対照表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-117	高等学校	国語科	国語総合	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	国総・339	明解国語総合 改訂版		

### 1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、平成二十一年三月九日付文部科学省告示第三十四号「高等学校学習指導要領」に基づいて、高等学校国語科「国語総合」の教科書として編修したものです。今回の「国語総合」教科書の編修にあたりとりわけ留意したのは、以下の点になります。

#### 1 自ら学び自ら考える意欲をもった、個性豊かな人間として、新しい時代に生きていくための国語の力を育成する。

情報化、国際化された現代社会では、自らの考えをもち、自ら解決していくという生きる力の育成が求められます。この教科書では、言葉によって課題を認識し、自らの言葉で考え、伝え合う力を高めることをとおして、主体的に生きる人間として自己を確立し、個性豊かに生きていく人間の育成を旨としました。

#### 2 多様な価値にふれ、広い視野で物事を考えるときにも、偏らない視点で客観的に思考・判断ができる、幅広い人間性を育てる。

国語科の学習内容は、その話題においてきわめて多様な広がりがあります。この教科書では、国際的な視野で話題の多様性を保証しつつ、多様な価値にふれ、広い視野で総合的に物事を考えていくことができるよう配慮しました。そして、その話題について追究していく過程で、言葉の力を身につけ、幅広い人間性、豊かな感性を育てることを意図しました。そのため多様な教材（学習材）を用意するとともに、読書活動が豊かに展開されるよう十分に配慮しました。

#### 3 国語学習の基礎・基本を重視し、適切に表現し、的確に理解する能力を養い、伝え合う力を高める。

中学校の国語学習の到達点から高等学校の国語学習へと円滑に接続できるよう、基礎・基本をふまえ、教材の内容とその配列を工夫しました。また国語学習が言語の学びであることを明確にし、基礎、基本を重視するとともに、日常の言語生活との接点を意識しながら、表現力、理解力、さらに生活に生きる伝え合う力の育成を旨としました。

#### 4 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習の独自性を重視するとともに、言語活動をとおして総合的な言語運用能力を育てる。

伝え合う力は、総合的な言語運用能力です。ともすれば理解に偏りがちであった国語学習を脱却し、表現学習で身につけた言葉の力が総合的な言語運用能力として定着するよう、学習活動を工夫しました。また、それらの学習が理解の学習とも関連し、話す・聞く・書く・読む、全ての能力が総合的に育成されるよう配慮しました。

#### 5 日本の言語文化の伝統への理解を深め、確かな言葉の力を育成する。

確かで豊かな言葉の力を身につけるためには、近代の名作や古典作品に深くふれていくことが必要です。日本の言語文化の歴史と伝統に対する認識を高め、その今日的意義を理解し、言語生活に生かしていくことが求められます。そのため、学習者の興味、関心を引き、学習意欲を喚起できる確かな教材をそろえると同時に、学習者が主体的に学習に取り組むことができるよう、学習課題を工夫しました。

#### 6 国語に関する知識、言語事項が生きてはたらく総合的な学習指導を実現する。

この教科書では、国語科における言語の教育という点を重視しました。そのため、国語に関する知識や国語の特質に関する事項が、単なる記憶にとどまらず、言語生活に生きていくよう配慮しました。広く日常や学校での実用的な側面にも配慮し、生活に役立つ言語運用能力という視点を明確にしました。

## 7 学習目標を明示し、評価規準を明確に設定できるようにする。

それぞれの教材に、内容・テーマを深める目標と言葉の力を高める目標とを提示し、内容を楽しく探求しながら言葉の力をつけることができるように配慮しました。学習目標を明確に提示することで、学習者も何を学ぶのかを適切に理解できるとともに、学習内容の精選と評価規準の明確な設定が可能になっています。

## 8 高等学校の多様な学習実態に対応し、カリキュラム開発を可能にする可塑性のある教科書を目ざす。

この教科書は、「現代文・表現編」「古典編」「資料編」という三部で構成されています。「現代文・表現編」「古典編」は基礎的・基本的な内容がもれなく学べるように、精選された教材で構成されています。「資料編」は、本編での学びをさらに豊かに展開することができるよう、学習に役立つ多様な資料で構成されています。これらの教材を適切に組み合わせることで、学習者の実態に対応した年間カリキュラムを、適切に構成することができます。

## 2. 編修の基本方針

改正された教育基本法の主旨、特に「第二条 教育の目標」に定めるところを具現化するために、次のような方針に基づいて編修にあたりました。

本書の編修にあたっては、小学校・中学校での学びの延長線上に学習者の発達を捉え、高等学校の学習への円滑な接続を図ることによって、基礎的・基本的な言葉の力を育成するとともに、言葉と生活を結び、言葉によって考え、言葉によって主体的に他者、社会にかかわっていく人間を育成することを基本方針としました。そのことによって、言語の学習をとおして、人間形成に資する教科書、生きる力を育む教科書の実現を目ざしました。具体的には次のような点に配慮しました。

- ① 基礎・基本を着実におさえ、中学校からの円滑な接続を重視した教材。
- ② 生命・自然・環境など現代の課題に対応し、学習者の問題意識を喚起する、清新で魅力あふれる教材。
- ③ 多様な価値を提示し、幅広い知識と教養を身につけられる、バランスのよい教材。
- ④ 古典入門を円滑にし、伝統的な日本の言語文化を実感することのできる教材。
- ⑤ 多様な表現学習が生活に生きるように具体的に展開できる教材。

また、国語を総合的に学習する国語総合の科目としての性格をふまえ、一つ一つの教材の価値を大切にしつつ、学習者の主体性や多様性を保障し、総合的な言語運用能力を育成するため、この教科書では次のような構成で教材を配列しました。

- ① カリキュラム開発を可能にする「現代文・表現編」「古典編」と「資料編」の三部構成。
- ② 「話すこと・聞くこと」「書くこと」については、「読むこと」及び「国語の特質に関する事項」と密接に関連させながら、「話す・聞く・書く」を知識・技能にとどめず、生活の中から課題化し、総合的な言語運用能力として身につけることができるよう配慮しました。
- ③ 「読むこと」については、中学校での学習の到達点から、高等学校での学習へと円滑に接続できるよう、発達段階に合わせて、教材の配列、順序には特に意を用いました。
  - ア. 現代文については、文学的文章、評論的文章いずれにも偏ることなくバランスよく教材を配置し、学習者の意欲を高め、興味をもって学習に取り組めるよう変化に富むものにしました。
  - イ. 古典（古文・漢文）については、現代に生きる古典という観点から、学習者が興味と関心をもつことができるような教材を重視しました。教材の提示においては、現代語訳や書き下し文を積極的に取り入れ、「コラム」を充実させました。このことにより、学習者の理解が古典の内容の表層にとどまることを防ぎ、言語の学びとして主体的に学ぶことを可能にしました。
- ④ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、知識にとどまらない総合的な言語運用能力の向上を図るため、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動で、音声、文字、それぞれに即した注意点を具体的に示しつつ、実践的に理解が深まるよう工夫しました。また「読むこと」の学習においては、それぞれの教材に即して、類義語、対義語、短文の作成などの指示を行い、語彙学習の継続的、体系的指導を目ざしました。
- ⑤ 十代の若者の活字離れへの対応、読書活動の推進といった課題に対応し、現代文・表現編に設けたブックガイドや古典編のコラムなどにより、読書への広がりが見られるように配慮しました。

### 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色 (◇内は教育基本法からの引用)	該当箇所 (ページ)
<b>現代文・表現編</b>		
ベトナムのコーヒー屋	ベトナムを訪れた「私」とコーヒー屋の人たちとの結びつきの深まりを読み味わうことで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指しました。 【第五号<伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。>】	10～17
負け方を習得する	勝ちにこだわることの多い現代社会の問題点とは何かについて考えを深めることで、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指しました。 【第三号<正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。>】	18～23
とんかつ	中学校卒業後に雲水となることになった少年とそれを支える母親、二人を見守る宿の人たちの交流と心情を読み取ることで、豊かな情操と道徳心を培うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	26～39
オムライス	公園で拾った本が、いつも独りぼっちだった男の子の心情にもたらした変化について考えることで、豊かな情操と道徳心を培うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	40～46
シリウス シジミ 校庭で	詩をとおして豊かな言葉の世界にふれ、豊かな情操と道徳心を培うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	50～57
魚は陸から離れられない	魚の生態を明らかにしていく文章を読み、自然と人間との関わりについて考えを広げることで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指しました。 【第四号<生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。>】	60～73
ツゴイネルワイゼン	一人の人間と戦争との関わりをもとに、生き方について考えを深めることで、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指しました。 【第五号<伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。>】	78～89
バスに乗って	母の入院にまつわる少年の思いの変化を読み深めることで、豊かな情操と道徳心を培うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	94～105

なめとこ山の熊	熊捕りの名人、淵沢小十郎と熊たちの姿をとおして語られる、生命観や人間観・自然観について理解を深めることで、豊かな情操と道徳心を培うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	106～119
遠い片手 短歌九首 麦わら帽子のへこみ 春のオルガン 俳句十二句	短歌と短歌に関する解説文、俳句をとおして豊かな言葉の世界にふれ、豊かな情操と道徳心を培うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	124～135
水の東西	二つの水の姿を捉え、東西の文化の違いについて考えを深めることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、自国と他国の文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指しました。 【第五号<伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。>】	137～143
問題解決の心理学	日常生活の中の「問題解決の方法」について考えを深めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	144～150
豊かな仕事言葉	現場での人間の仕事が生み出す豊かな言葉の世界について考えを深めることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことを目指しました。 【第二号<個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。>】	155～164
「発見」最初は気づかない	科学における「発見」とは何か、筆者の体験をとおした考え方について理解を深めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	165～170
羅生門	追いつめられた状況の中での、人間の考え方や心の動きについて考えることで、豊かな情操と道徳心を培うことを目指しました。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。>】	172～187
届く言葉、届かない言葉	「届く言葉」と「届かない言葉」の違いについて考えを深めることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指しました。 【第三号<正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。>】	190～196

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色 (◇内は教育基本法からの引用)	該当箇所 (ページ)
<b>古典編</b>		
古文の世界へ	<p>古典やその言葉の歴史、作品の中に表れた文化を読んだり学んだりすることの意義を述べた文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する精神を養うことを目指しました。</p> <p>【第五号&lt;伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。&gt;】</p>	209～211
「筒井筒」について —『恋する伊勢物語』より—	<p>古典に関する近代以降の文章を読むことで、古典の世界への興味関心を広げ、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する精神を養うことを目指しました。</p> <p>【第五号&lt;伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。&gt;】</p>	242～245
源氏物語の世界へ	<p>世界的に知られた我が国の代表的な古典文学の世界を紹介した文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する精神を養うことを目指しました。</p> <p>【第五号&lt;伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。&gt;】</p>	260
漢文の世界へ	<p>漢文の受容やその歴史について読んだり学んだりすることの意義を述べた文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する精神を養うことを目指しました。</p> <p>【第五号&lt;伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。&gt;】</p>	265～267
日本人と唐詩	<p>唐代に絶頂を迎えた漢詩と、そうした中国の文化を吸収するために中国に渡った日本人について記した文章を読むことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する精神を養うことを目指しました。</p> <p>【第五号&lt;伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。&gt;】</p>	286

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

上記の記載以外では、特に以下の点に意を用いました。

- ・学校教育法第五十一条一号の「義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させ」る目標に供するために、現代文・表現編各「読むこと教材」の「学びの道しるべ」に「語句」と「漢字」の課題を設定し、義務教育段階での学習の定着と常用漢字の読み書きの確実な習得を目指しました。
- ・学校教育法第五十一条二号の「一般的な教養を高め」る目標に供するために、「資料編」に「古典の中の植物・古典の中の色」など、古典に関するカラー資料を設けました。(巻末口絵)
- ・学校教育法第五十一条三号の「個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養う」目標に供するために、現代文・表現編に多様な書籍を紹介する「ブックガイド」1～4(47ページ・58ページ・93ページ・131ページ)を設けました。
- ・学校教育法第三十条第二項の「基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う」目標に供するため、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の各教材においては、段階的に手順を示し、学習者が主体的に活動に取り組めるように配慮しました。また、現代文・表現編の「読むこと」教材においては、「学びの道しるべ」の問いを段階的に設定し、学習者の主体的な学習を促すとともに、特に読んだことを表現につなげる「学びを広げる」を設けて思考力と表現力を養うことに意を用いました。

# ①編修趣意書（学習指導要領との対照表，配当授業時数表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-117	高等学校	国語科	国語総合	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	国総・339	明解国語総合 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### （１）教材選定と作成の基本方針

#### 1 基礎・基本を着実におさえ、中学校との連続を重視した教材

教材の選定，教材化にあたっては，学習者の実態を考慮し，中学校国語科での学習の到達点から，高等学校国語科の学習へと円滑に接続することができるよう留意しました。また発達段階にふさわしい基礎的，基本的な教材を工夫しつつ，高校生として望ましい国語の力を身につけることができるように，その系統性を重視しました。とりわけ古典に関しては，中学校との関連を重視し，無理なく学習を展開することができるよう，特段の配慮をしました。

#### 2 現代の課題に対応し，学習者の問題意識を喚起する，清新で魅力あふれる教材

学習者が学習内容に真剣に向き合うことができるよう，学習者の問題意識を喚起するような話題を選びました。現代に生きる人間として，学習者が主体的に考え，人生，生命，国際社会，勤労，科学，自然，環境，言語等について思いを深めることができる教材を精選しました。また課題を発展させたり，読書活動に展開したりすることで，思考を深め表現したり，幅広い知識や教養を身につけたりすることができるよう学習課題を工夫しました。

#### 3 多様で，バランスのよい教材

様々な価値観にふれ，広い視野で物事を考えるとともに，偏らない視点で客観的に思考・判断ができる，幅広い人間性を養うために，多様な話題を設定しました。また評論的文章，文学的文章，古典など，文章の種類においても多様性を保障するとともに，全体としてバランスを欠くことがないよう配慮しました。さらに教材として定評のあるものと，今日的な清新なものとのバランスにも配慮しました。

#### 4 古典入門をスムーズにし，伝統的な日本の言語文化を実感することのできる教材

古典編の冒頭に「古典の響き」を設け，中学校での学習を引き継ぎ，音読を重視して，古典入門を無理なく行えるよう留意しました。また多様な古典教材を選定し，学習者の実態に適応した指導が展開できるよう，教材化を工夫しました。さらに日本の言語文化の諸相を幅広く取り上げ，日本の伝統文化にふれ，これを尊重する態度が養われるよう配慮しました。

#### 5 多様な表現学習が具体的に展開できる教材

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域においては，主体的な言語活動をとおして，適切に表現する能力を育成し，伝え合う力を高め，総合的な言語運用能力の基礎を確実に身につけられるよう，学習活動の手順を丁寧に提示しました。またスピーチや討論，投書など，社会生活につながる実用性に富んだ活動例を精選し，単に文例や模範文を示すのではなく，表現活動の具体的な展開を教室の実践に即した形で提示することによって，学習者が自らの考えをもち，価値観を育みつつ，創造的に表現したり，主体的に聞いたりすることができるようにしました。

### （２）構成と配列の基本方針

国語を総合的に学習する国語総合の科目としての性格をふまえ，一つ一つの教材の価値を大切にしつつ，学習者の主体性や多様性を保障し，総合的な国語能力の育成を図るため，この教科書では次のような構成で教材を配列しました。

#### 1 多様なカリキュラム開発を可能にする「現代文・表現編」「古典編」と「資料編」の三部構成

本書は，基礎・基本を重視し，確かな言葉の力を身につける「現代文・表現編」と「古典編」，これらの学びを豊かに展開する材料としての「資料編」との三部で構成しています。三者を年間カリキュラムとして有機的に構成，展開することで，多様な学びの可能性が開かれ，学習者の言葉の学びが主体化し，豊かになってゆくことが期待されます。

#### 2 「話すこと・聞くこと」「書くこと」について

「話すこと・聞くこと」「書くこと」については，「読むこと」及び「国語の特質に関する事項」と関連させながら，総合的な言語運用能力が身につけられるようにしました。「話す・聞く・書く」を社会生活の場面から課題化し，生活能力として身につくよう配慮しました。また学校生活の中で学習する時期に配慮しながら，時宜にかなった活動を，他の教材の内容と有機的に関連し合うよう配列しました。

#### 3 「読むこと」について

①現代文について 中学校の学習から高等学校の学習へと円滑に接続できるように，教材を精選し，発達段階に合わせて平易で親しみやすい文章から，次第に高度な文章へと進むよう，配列には特別に意を用いました。また教材は，文学的文章，評論的文章いづれにも偏ることなく配置し，学習者の意欲を高め興味をもって取り組めるよう変化に富むものにししました。

②古典（古文・漢文）について 中学校での学習をふまえ，現代に生きる古典という観点から，学習者が古典の世界に親しみ，興味と関心をもつことができるような教材を重視しました。古典編冒頭の「古典の響き」は，中学校で学習した可能

性が高い教材で構成し、音読をとおして学習を振り返り、高等学校への古典学習への円滑な接続を目ざしました。また各教材については、学習者の発達段階に即した、話題性に富む作品を精選しました。さらに現代語訳や書き下し文を積極的に取り入れ、これを段階的に設定することにより、古典学習への抵抗感を減らすよう配慮しました。この他、古典への親しみや興味・関心を喚起するよう「コラム」を充実させました。これらのことにより、学習者の理解が古典の文法や訓読といった表層にとどまることを防ぎ、「読むこと」の教材としての内容を主体的に学ぶことを可能にしています。また「古文のとびら」「漢文のとびら」を計5か所設け、古典学習に必要な知識について、その都度まとめて学習することができるようにしました。

#### 4 「国語の特質に関する事項」について

学習者が、日常生活において言語に関心をもつことができるよう、様々な工夫をこらし、総合的な言語運用能力の向上を図るため、特に配慮しました。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習場面では、音声、文字、それぞれに即した注意点を具体的に示しつつ、実践的に理解が深まるよう工夫しました。「読むこと」の学習では、それぞれの教材で類義語・対義語を調べる、短文を作成するなどを行い、継続的、体系的に語彙学習ができるよう配慮しました。また常用漢字についても、各教材で課題を設定し、「主な常用漢字が書けるようになること」が確実に達成されることを目指しました。

#### 5 読書指導について

若者の活字離れ、読書活動の推進といった課題に対応し、現代文・表現編に設けたブックガイドや古典編のコラムなどにより、読書の広がりや図れるように配慮しました。

#### 6 学習指導についての配慮

- ①学習へのいざない 現代文教材の冒頭に、学習者がその学習の見通しを立てたり、内容に興味をもったりすることができるようリード文を置き、学習のスタートでできるだけつまずきが生じることがないように配慮しました。
- ②学びの道しるべ（手引き） 「読むこと」の各教材の末尾に設け、考えを深める学習のねらい（価値目標）と、言葉の力をつけることを目指した目標（技能目標）として提示するとともに、内容を理解し、言葉の力をつけるための学習課題を段階的に設定し、学習を進めやすくしました。これにより、学習目標や評価規準を明確に示すことができます。つまずきが予想される学習課題には手がかりを示し、学習者の理解が深められるよう配慮しました。また「学びを広げる」を設けて発展的な課題を提示し、表現活動に結びつけ、「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ」ために、学びを広げたり深めたりしていくことができるように配慮しました。
- ③語句と漢字 詩歌・韻文を除く現代文の教材には、脚注欄に重要語句を抜き出し、意味や対義語・類義語などを調べたり、短文を作ったりすることで、語彙に関する理解を深めることができるようにしました。また脚注欄には、確かめておきたい漢字も抜き出し、本文の文脈の中で使われている形で提示しました。さらに古文教材には、古文を読むうえで確かめておきたい語句を、脚注の末尾に取り立てて提示しました。
- ④脚注 注記や注釈が必要な語句等については、脚注によって提示しました。学習者の発達段階や中学校での学習を考慮しつつ、文脈で理解できるものは除き、必要と思われるものについて取り上げました。なお古典の場合は、現代語訳とのバランスを取りながら、本文の読みの流れにそって理解しやすいよう配慮し、学習への抵抗感を減らすために、適宜平明かつ簡潔な解説をほどこしました。
- ⑤古典編教材の現代語訳と書き下し文 古典編の教材については、中学校での学習から、古典学習への抵抗感をできるだけ生じさせることなく、高等学校の学習へと円滑に接続していくため、現代語訳と書き下し文を積極的に取り入れ、入門部分から段階的に設定しました。
- ⑥知識・技能の確実な定着 知識・技能の確実な定着を図るために、現代文では「学びの道しるべ」に「語句」「漢字」の学習課題を設定しました。また古典においては「古文のとびら」「漢文のとびら」「古典文法の要点」「訓読のきまり」を設け、古典学習の基本的な決まりや事項についてまとめて学習できるようにしました。

#### 7 用字・用語・表記について

- ①口語体の文章は現代仮名遣い、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとしました。また送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。
- ②「常用漢字表」にない漢字・音訓、また「常用漢字表」（平成二十二年十一月三十日付内閣告示第二号）に新たに加わった漢字・音訓、および高等学校で学習する音訓については、それぞれ原則として見開き初出で振り仮名をつけました。また中学校で学習する常用漢字とその音訓、常用漢字であっても読み誤りやすいもの、固有名詞などについては、それぞれ原則として教材初出で振り仮名をつけました。
- ③詩・韻文教材など形象性の強い作品の表記は、原則として原典および原作者の求める表記に従いました。また古典の教材については、学習者の発達段階を考慮して用字・句読点などに適切な工夫をこらしました。
- ④外国地名・外来語の表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

#### 8 その他

- ①写真・挿絵・図版等について 教材には補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版等を必要に応じて掲載しました。写真等に付すキャプションについても、教材の内容理解や学習活動に資するよう、表現に留意しました。
- ②「資料編」について 「資料編」には、学習活動を多様に展開するための資料となるもの、また、学習者が主体的に自らの学びをひろげていくために参考となるものを収録しました。この「資料編」の活用により、多様な学びの可能性が開かれ、学習者の言葉の生活が豊かになっていくことが期待されます。

## 2. 対照表

図書の構成・内容 (教材名)	学習指導要領の内容	該当箇所 (ページ)	配当時数
<b>現代文・表現編</b>			
ベトナムのコーヒー屋	読むウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 [以下, 伝国] イ(ア)(イ)・ウ(ア)	10～17	2
負け方を習得する	読むイ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	18～23	2
自分を印象づけるスピーチ 自分を漢字で表すと?	話す・聞くア・イ 伝国イ(ア)(イ) 言語活動例ア	24～25	2
とんかつ	読むウ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	26～39	4
オムライス ブックガイド1	読むア 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	40～47	2
なんて、言っている?	話す・聞くア・イ 言語活動例イ	48～49	2
シリウス シジミ 校庭で ブックガイド2	読むア	50～58	3
隣の友達	書くイ・ウ	59	2
魚は陸から離れられない	読むイ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア) 言語活動例イ	60～73	4
海ガメの無念 読み比べ	読むオ 言語活動例ウ・エ	74～75	2
情報の読み方・扱い方	書くイ・ウ 伝国イ(ア)(イ) 言語活動例イ	76～77	6
ツゴイネルワイゼン	読むア 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	78～89	3
私の発見や変容を伝える 感想文・報告文 ブックガイド3	書くア・エ 言語活動例ア	90～93	10
バスに乗って	読むウ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	94～105	4
なめとこ山の熊	読むオ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	106～119	4
この本を読んでみて! ブックトーク	話す・聞くウ・エ 伝国イ(ア)(イ) 言語活動例イ	120～123	5
遠い片手 短歌九首 麦わら帽子のへこみ ブックガイド4 春のオルガン 俳句十二句	読むオ 言語活動例エ	124～135	3
原作と勝負!	書くウ・エ	136	2



水の東西	読むエ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	137～143	2
問題解決の心理学	読むイ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	144～150	2
討論ゲームを楽しもう	話す・聞くウ・エ 伝国イ(ア)(イ) 言語活動例ウ	151～154	4
豊かな仕事言葉	読むイ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	155～164	2
「発見」最初は気づかない	読むオ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	165～170	2
マンガの楽しみ	書くイ・ウ	171	2
羅生門	読むエ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	172～187	5
新聞を持ち寄って編集しよう まわし読み新聞	話す・聞くア・イ 言語活動例ア	188～189	2
届く言葉、届かない言葉	読むオ 伝国イ(ア)(イ)・ウ(ア)	190～196	2
新聞に投書してみよう 意見文	書くア・エ 伝国イ(ア)(イ) 言語活動例ウ	197～202	8
<b>古典編</b>			
古典の響き	読むア 伝国ア(ア)	204～208	1
古文の世界へ	伝国ア(ア)	209～211	3
古文入門 児のそら寝(宇治拾遺物語)	読むウ 伝国ア(イ)・イ(ア)	212～215	
古文入門 検非違使忠明(宇治拾遺物語)	読むウ 伝国ア(イ)・イ(ア)	216～218	2
古文のとびら 1 歴史的仮名遣い・古語の意味と形	伝国ア(イ)・イ(ア)	219～221	*1
徒然草 公世の二位のせうとに 高名の木登り 丹波に出雲といふ所あり	読むエ 伝国ア(イ)	222～227	3
枕草子 五月ばかりなどに にくきもの	読むア・イ 伝国ア(イ)	228～231	3
方丈記 ゆく河の流れ	読むア・イ 伝国ア(イ)	232～233	1
コラム 三大随筆	伝国ア(ア)	234	*2
古文のとびら 2 助動詞・助詞・係り結び	伝国ア(イ)	235	
伊勢物語 芥川 筒井筒	読むウ 伝国ア(イ)	236～241	5
「筒井筒」について — 『恋する伊勢物語』 より—	読むエ・オ 伝国ア(ア)	242～245	

コラム 平安時代の結婚	伝国ア(ア)	245	
うたう心 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集	読むア・ウ 伝国ア(イ)・イ(ア) 言語活動例ア	246～250	3
コラム 三大歌集	伝国ア(ア)	250	
古文のとびら3 和歌の修辞	伝国ア(イ)	251	
平家物語 木曾の最期	読むア・ウ 伝国ア(イ)・イ(ア)	252～258	4
古文のとびら4 敬語	伝国ア(イ)	259	
コラム 源氏物語の世界へ	読むオ 伝国ア(ア)	260	
古典文法の要点1 用言の活用	伝国ア(イ)	261～262	*1
古典文法の要点2 助動詞・助詞	伝国ア(イ)	263～264	*2
漢文の世界へ	伝国ア(ア)	265～267	2
漢文入門 故事成語	読むア 伝国ア(ア)(イ)・イ(ア)	268～271	
漢文入門 虎の威を借る	読むウ 伝国ア(イ)・イ(ア)	272～273	2
漢文入門 蛇足	読むウ・エ 伝国ア(イ)・イ(ア)	274～276	2
コラム 故事成語と遊説家	伝国ア(ア)	277	
漢詩の世界	読むア・ウ 伝国ア(イ)・イ(ア) 言語活動例ア	278～286	5
コラム 日本人と唐詩	伝国ア(ア)	286	
漢文のとびら 漢詩の形式	伝国ア(イ)	287	
論語の言葉	読むイ・オ 伝国ア(イ)・イ(ア)	288～293	5
コラム 孔子の人生	伝国ア(ア)	294	
史話を読む 蓋頭上題合字(世説新語) 前有大梅林(世説新語) 死諸葛走生仲達(十八史略)	読むイ・ウ 伝国ア(イ)	295～300	6
コラム 三国志を楽しもう	読むオ 伝国ア(ア)	301	
訓読のきまり	伝国ア(イ)	302～304	*3
合計			140

\*1…「児のそら寝」「検非違使忠明」に配当時数を含めている。

\*2…「徒然草」「枕草子」「方丈記」に配当時数を含めている。

\*3…「故事成語」「虎の威を借る」「蛇足」に配当時数を含めている。